

CLOSE UP!



## みなさまに信頼される安心の病院環境づくりをめざして 感染や伝染を未然に防いで病院内の安全を守っています ～安全管理対策室 感染対策部門の活動のご紹介～

### ～安全管理対策室 感染対策部門の目的とは～

病院や医療機関は病気を治療する場所ですが、なかには病原体に感染した患者さん  
もいますし、抗生物質や消毒薬を多く使用することによって多様な薬剤に耐える病原体  
(多剤耐性菌)が発生する危険性もあります。

そうした環境だからこそ、より一層の安全性の向上をめざした取り組みが求められて  
いるといえます。

### ●感染を未然に防ぐ予防対策が肝心

安全管理対策室は、徳島大学病院の医療安全を向上させるために平成17年5月に設置されました。従来からの安全管理対策室をリスクマネジメント部門、感染対策室を感染対策部門として統合して「安全管理対策室」にし、医療安全を推進する体制でより全体的な視野から安全管理に取り組むことにしたのです。

このところ、さかんにアシネトバクター等おどろおどろしい名前が多剤耐性菌の院内感染問題が、マスコミで大きく取上げられます。これは多くの薬剤に対して耐える性質を持っているということで、病気の多様化に対して薬剤の種類や使用量も増えるなか、病原菌も複雑化高度化してきたわけです。ですから多剤、耐性というわけです。

これまで東京の大学病院の安全管理の問題が大きく取上げられていますが、平成20年の厚生労働省の全国調査によると、地域で感染症対策の中核を担う大きな病院のなかでも「院内感染の専門的な職員を従事させている」と答えたのは3分の1程度だったとのこと。

当院の感染対策部門では、専従の感染管理認定看護師(ICN)2名と感染対策担当医3名が配置されています。患者さんと直接向かい合う医療現場とはいささか趣を異にしますが、これもまた病院に欠かせない専門的な分野における縁の下の力持ちとして、黒衣(くろこ)的に病院全体の安全、安心を担っているわけです。



■説明は、  
徳島大学病院 安全管理対策室 感染対策部門長 先山 正二(さきやま しょうじ) / 中央  
感染対策副部門長・感染管理認定看護師 高開 登茂子(たかがい ともこ) / 右  
感染対策部門・感染管理認定看護師 長尾 多美子(ながお ためこ) / 左  
■問い合わせ/安全管理対策室 Tel.088-633-7305

### ●発生を未然に防ぎ、予防する対策がいちばん大事

事故やトラブルはある日突然発生するのではなく、問題を含んだ出来事が積み重なって大きくなっていきます。しかも病原菌は目に見えるものでないので、知らず知らずの間に結果として院内感染に結びついてしまいがちです。そこで大切なのが視覚化すること。感染の危険性を目に見える形にすることで警鐘を鳴らすため、先の2人の専従認定看護師が週に一度は病院内を徹底的に歩いてまわり、現場対策をチェックし情報収集を重ねています。感染が広がっていないか危機感を持って常に監視し、客観的なデータを示すことで注意を喚起しているわけです。

情報を集めることはもちろんのこと、検査部や薬剤部などとのネットワークを持ち、病原菌の

特性を把握したうえでリアルタイムでの情報共有にもつとめています。また、感染対策部門会議および委員会を開催し、できるだけ多くの目でチェックすることによって「(発生の)気配を見つける」ことに力を注いでいます。そうした総合的な取り組みによって、院内感染が発生する前に抑えることが可能になります。

当院は、他の病院に比べて多剤耐性菌問題に対しての体制整備は充実したものの、「今世紀は感染症の時代」ともいわれるだけに、新たな問題が発生する危険性も指摘されています。新しい治療薬、予防薬の開発も進んでいるなか、この分野でもより多くの専門家の育成が必要とされています。

大学病院としての特性を活かし、院内の知

識を総合したネットワークによる取り組みによって院内感染の予防につとめています。何よりも大切なのは地道な啓発啓蒙活動。院内向けには手作りポスターの製作などで常に注意を喚起し、病院関係者はもちろんのこと患者の皆様やご面会の方にも情報提供を行い、病院全体として感染対策に取り組んでいます。

そして机の上での勉強、学問的な知識はもちろんですが、肝心なのは手洗いが基準に達しているか等、基本動作の徹底です。そうした地道な積み重ねを出来るだけ丁寧に繰り返すことで実践が着実に身につく、病院全体の安全管理につながっていきます。

これまで、そしてこれからも、基本重視の取り組みを続けていきます。